

セキエイが魔法学校を退学することが決まった。

魔法学校きつての天才児であり魔法使い一族のエリートであった輝ける水晶は、もはやその光を永遠に失ってしまった。それは他ならぬ、三日前のあなたとの決闘が原因なのは間違いないかった。

「ナナカマド、おれと立ち合え」

満月の夜、並んで月を見上げていたセキエイが、真剣な面持ちであなたに告げた。

川のせせらぎが聞こえていた。

あなたは彼の並々ならぬ決意を感じていたが、あえて冗談だろう、と笑った。

セキエイは笑わなかった。

しばしの沈黙の後、あなたはやはり微笑んだまま、彼の肩に触れた。

「理由がないじゃないか」

「いや、ある」

セキエイは食い下がった。

「おれは次の春にはもういない。サンデ島に戻る事になったのだ」

あなたはセキエイの意外な言葉に面食らった。彼は校長である大賢者の元で卒業後も修行に励むのだと思っていた。それが、故郷に帰って島の魔法使いなどをするとどう。

「それは、大賢者の意向で？」

「そうだ」

セキエイはあなたの驚いた様子にうなずく。

「だから、決着をつけるなら、今しかない」

「いや……それはわからないさ」

あなたはつとめて柔らかく、彼に寄り添うようにして言った。

「いずれにしたって、またこの学校で会えるだろう。俺は名付けか変化あたりの賢者として、君は大賢者として」

「大賢者か。それはお前の役目だと、今は誰もが思っているようだが」

セキエイは感情を押し殺すように目を閉じた。

あなたはセキエイこそがその役目だと主張したが、彼は取り合わなかった。

「ヤマメだって、俺と同じことを言うだろうさ」

あなたは彼の婚約者であり、あなたの同級生でもある聡明で美しい少女の名を挙げた。友の気持ち

を解きほぐそうと思つてのことだった。

「ああ。おれはいずれあいつと暮らすだろうからな」

セキエイはぼそりと付け加えた。

「おれもあいつも——お前の影を引きずりながら」

あなたは心臓を掴まれるようだった。

小さく首を振つて何か二の句を告げようとしたが、うまく言葉が出なかった。

やっとのことで出たのは、うめき声のような小さな声だった。

「彼女の気持ちは、君のものだ」

「違う」

セキエイは即座に否定した。

「あいつがおれを選ぶことは知っている。だがそれは彼女が約束を果たすというだけで、本当の気持ちはまた、いや——」

彼はかぶりを振つて言葉を打ち消すように叫んだ。

「あいつとの話じゃない。おれは、お前と、決着をつけたいんだ」

そして、小川の流れる左手から立ち上がると、もう一度言った。

「ナナカマド、おれと立ち合え」

セキエイはゆっくりと歩いて距離を取ると、あなたに向き直つて両腕を掲げた。

満月の夜の満ちた魔力が彼の両手に吸い込まれて、結晶になっていくようだった。

聞き惚れるような美しい詠唱。

しかし今夜のそれは、いつもと違った。

その美しい響きの中に、鬼気迫るような迫力がある。

聞いたこともない呪文だった。

呼び出しの呪文であることは分かる。

ただ、何を呼び出そうとしているのかはわからない。

「よせ、セキエイ」

嫌な予感がああなたの背筋を冷たく走り抜けた。

あなたの予感では、彼はいにしへの禁じられた神に交信しているようだった。

邪悪な気配が凝り固まっていく。

「分かった。俺の負けだ、セキエイ。だからもうやめてくれ」

脂汗を流して喉を引きつらせながら、あなたは叫んだ。

彼は呪文に取り憑かれているかのように止まらなかつた。

セキエイは締めくくるように、最後の呪文を唱えた。

唸り声のような、咳き込むような声だった。

「ヤグツァール！」

そのように聞こえた。空間に叩き割られたような亀裂が走り、闇が中から顔を覗かせた。

「ヤグツァール！」

亀裂が押し広げられ、バリバリと雷鳴のような音を立てて広がっていく。

「ヤグツァール！」

ついに空間の亀裂は開ききり、人を一掴みに握りつぶしてしまうほどの巨大な闇の五指がぬらりとそこから這い出た。

闇の手のひらは一直線に、セキエイに向かって掴みかかった。

一瞬の出来事だった。

目を覚ました時、セキエイは魔力を失っていた。

彼の魔力の戻らないことは、魔法学校の生徒なら誰でも肌で感じられた。

彼はまるで、元から魔法の使えぬ一般人のようだった。

彼の退学が決まった。

魔法の使えぬ魔法使いに居場所はないというわけだった。

あなたは見た。

闇の亀裂から這い出てきた五本の指が、セキエイの魔力を持ち去ったのを。

セキエイの魔力を奪った者の正体を知り、何とか交信することができれば、奪われた魔力を取り戻せるかも知れない。

もはや時間はない。セキエイは明日の朝島を出てしまふ。

にわかには騒ぎ出した魔法学校の寮の一室を、あなたは並々ならぬ決意を胸に踏み出した。

1へ。